資料２－３

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ開催概要

１　日　　時　令和４年９月 17 日（土）13 時から 15 時まで

２　場　　所　八戸市立三八城公民館　ホール

３　出 席 者　22 人（八戸学院大学　学生 3 人、地域関係者(民生委員、町内会)19 人）

４　開催概要

（１）話題提供

「八戸市の高齢者に関する情報提供」

八戸市　福祉部　高齢福祉課　　主査　山口　誠

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学　健康医療学部　人間健康学科　講師　大木　えりか　氏

（２）アイスブレイク

ここからの進行は、八戸学院大学　健康医療学部　人間健康学科　助教　米田　政葉　氏

（３）グループワーク

テーマ「三八城地区における高齢者支援について考える」

①三八城地区における高齢者支援の現状

②課題の整理

③課題の改善策

（４）各グループからの意見交換

意見交換の概要は次のとおり。

三八城地区における高齢者支援の現状
○一人暮らし高齢者世帯が多い。 ○駅やバスなどの交通の便が良い。バスでショッピングセンターに行くことができ、高齢者にとって買い物が便利である。病院も多い。 ○市役所、公会堂、美術館、津波防災センターなどの公的機関が多く、他の地区に比べると運動場、スケート場、プールなどもあり環境が充実している。 ○馬淵川沿いに遊歩道や公園があり、体を動かしている高齢者がいる。 ○八戸城跡や南部会館など地域の中に歴史に触れる機会がある。 ○自分の地区は、昔から住んでいる人が多いため、人と人の結びつきがあり、協力的である。
課題の整理
○コロナ以降、集う機会が少なくなった。少しずつ、地域のイベントは再開し、人が集まるようになってきたが、新規の参加者や男性が集まらない。 ○コロナ禍で家にいる時間が長くなったせいか、以前に比べて元気が無い高齢者がいる。 ○80 歳代の高齢者が 50 歳代の引きこもりの子どもの世話をしているケースがある。 ○民生委員からの訪問拒否や世話になりたがらない高齢者もいる。 ○民生委員をフォローできる仕組みが欲しい。 ○一人暮らしの男性高齢者は、集まりに参加するのが苦手で、趣味が無ければ引きこもりがちに

なりやすく感じる。 ○ごみ捨て、除雪などで大変な高齢者がいる。 ○地区によっては、近くに集会所がない。 ○地域の行事に若い人のボランティアが欲しい。
課題の改善策
○家に閉じこもりがちの高齢者を外出する機会をつくる。 ○日頃の生活の中から、顔の見える関係をつくり、近隣住民と民生委員と高齢者支援センターで連携する。

5　今回のワークショップと関連した今後の取組

令和４年度の高齢者支援センターみやぎの主な重点活動及び目標の実践的な取組として、社会福祉法人みやぎ会が地域貢献として三八城地区住民を八食センターへ連れて行き、そこで介護予防教室の開催と八食センター内での買い物を行う企画があった。

そこで、次の取組を行った。

○8/29(月) 社会福祉法人みやぎ会が、約 20 人の三八城地区民生委員を対象とし、八食センターにおいて「八笑ウォーク」を試行的に開催し、介護予防教室や買い物や食事会などを行った。

○9/27(火)市高齢福祉課が三八城地区住民を対象に「住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ」を開催し、民生委員、町内会、介護保険サービス事業所などの関係者 19 人が参加し、三八城地区における高齢者支援の現状、課題の整理、課題の改善策を検討した。

○10/4(火) 社会福祉法人みやぎ会が 12 人の三八城地区住民を対象とし、八食センターにおいて、「八笑ウォーク」を開催し、介護予防教室や買い物や食事会などを行った。

○社会福祉法人みやぎ会が、残り 2 回の「八笑ウォーク」を開催し、今年度中に計 4 回開催し、そこに、引き続き、高齢者支援センターや市地域包括支援センターの生活支援コーディネーターも連携する予定。

※　別紙４～５参照